厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（総合）研究報告書

アンケートの小児がん拠点病院および連携病院への依頼方法の検討

研究分担者　富澤　大輔　国立成育医療研究センター診療部長

研究要旨

わが国の小児がん領域の診療を担う医療機関における療養支援職種の有無や配置状況の実態を把握し、人材育成につなげるためのアンケート調査の準備を行った。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

（分担研究報告書の場合は、省略）

A．研究目的

わが国の小児がん領域の診療を担う医療機関における療養支援職種の有無や配置状況の実態を把握し、人材育成につなげる。

B．研究方法

アンケート調査に加えて、令和6年度は厚生労働科学研究費補助金がん対策推進総合研究事業・QI松本班(23EA1008)(研究代表者：松本公一)で全国の小児がん拠点病院および小児がん連携病院に対して実施したQuality Indicator (QI)調査のうち、療養支援担当者数に関する指標のデータ提供を受けて、分析を行った。

C．研究結果

松本班によるQI調査の分析では、拠点病院では2016年までは療養支援担当者が未配置の施設もあったが、2019年以降は全施設で配置され（CLSやHPS（日本）が大部分を占めた）、多くが常勤雇用されていた。一方、連携病院では2020年時点で66%、2022年でも61%が未配置であり、特に連携病院1-Bや大学病院・総合病院での未配置率が高かった。これは、診療報酬上の位置づけのある保育士が大多数で配置されていたのとは対照的であった。

E．結論

アンケート調査やQI調査の分析結果から今後、小児がん診療施設における療養支援職の配置と充実を図るには、その養成体制の整備や専門性の明確化と同時に、診療報酬上に位置づけられることが求められる。

F．研究発表

1.　論文発表
なし
2.　学会発表
なし

G．知的所有権の取得状況

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3.その他
なし